オール埼玉で彩る文化プログラム助成事業

埼玉県文化振興基金

beyond 2020

サイタマアートコロニイプロジェクト

ヒアシンスハウス編

新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、今、改めて文化芸術活動の在り方や役割について考える機会と場が求められています。

私たちは、コロナ禍、公共機関が所管・運営する美術館や文化施設が閉鎖となり、芸術祭の様な地域活動と結びついた現場も実施困難となり、文化芸術活動への参加の機会を失う経験をしました。文化芸術活動の在り方や役割について考えるときには、閉じた特定の領域の文化芸術活動の担い手だけで議論し、早急に答えを出すのではなく、広く文化芸術活動に携わる様々な領域の人が集まり、多角的・多層的な意見を交わす機会と場をつくることが大切だと考えます。その機会や場を私たちは「アートコロニイ」と表現し、実践します。

今回のプロジェクトの舞台となる、ヒアシンスハウスは立原道造が自分の創作のために設計した小屋としてばかりではなく、ここで様々な芸術家が集まるコロニイの構想もその発想の根底にあったと推測される魅力的な場です。これまでもSMFは、ここで、様々な文化的な企画を開催し、アーティストだけでなく、公園利用者との交流も活発に行ってきました。今回のプロジェクトでは、主に5つのプログラム（レクチャー・展覧会・ワークショップ・シンポジウム・アンケート調査）を通して、ウィズコロナ時代の文化芸術活動を考える機会を創造したいと考えています。文化芸術の担い手だけでなく、2020年開催された「さいたま国際芸術祭2020」で集ったアートを支える市民とも積極的に連携し、ヒアシンスハウスと立原道造の「芸術家コロニイ構想」を共有するとともに、現在のウィズコロナ時代に合った文化芸術活動を共に楽しみ、支え育てる人たちのネットワークをつくります。そのネットワークを元に、日常生活の中でアートを愉しむ人たちが集い、様々な対話が生まれるアートプラットホームの構築を目指します。

SMF
Saitama Muse Forum

詳しくは裏面をご覧ください。

SMFアート寺子屋2021「レクチャープログラム」

「アート寺子屋」は、ヒアシンスハウスとその活動について学ぶプログラムを展開します。
新木場倶楽部「木まつり2021」とヒアシンスハウスの会「夢まつり」と協力して実施します。

参加費：無料

第1回：別所沼公園にあるヒアシンスハウスの17年
―個人意識が共有されるための地域プロセスデザイン―ヒアシンスハウスの建設・運営・維持管理を通して

9月11日㊏ 13:30～16:00　別所沼会館大会議室
講師：佐野哲史（建築家）／主催：新木場倶楽部／企画協力：JIA埼玉、SMF、ヒアシンスハウスの会

第2回：別所沼公園のヒアシンスハウスができるまで（ヒアシンスハウス・夢まつりの中の講演として実施）

11月6日㊏ 13:00～17:00　別所沼会館大会議室
講師：津村泰範（長岡造形大学准教授）／主催：ヒアシンスハウスの会／企画協力：JIA埼玉、SMF

第3回：立原道造とその時代の建築家たち　11月20日㊏ 13:00～17:00　別所沼会館大会議室
講師：中谷礼仁（早稲田大学教授）／主催：新木場倶楽部／企画協力：JIA埼玉、SMF、ヒアシンスハウスの会

ヒアシンスハウスアートコロニイ展「記憶のありか」

さいたまゆかりの3作家による、様々なジャンルの芸術文化活動を紹介し、アートコロニイを体感できる作品展です。
会期中、作家は公開制作などを行い、公園利用者との交流も行います。

10月30日㊏～11月7日㊐（展示・撤収日）　会場：ヒアシンスハウス前庭
出展作家：浅見俊哉（アーティスト）、石上城行（彫刻家、埼玉大学准教授）、藤井彩加（舞踊家）

浅見俊哉「青写真の瓦版-2021」

石上城行「記憶の容　生きていた舟」

藤井彩加「万博」11月7日㊐ 13:00～13:30

ヒアシンスハウスアートコロニイ展「ワークショップ」

別所沼公園の環境を生かしたワークショップを展覧会関連企画として実施します。

◀各ワークショップの申し込みはこちらで！（定員以上の場合は抽選）

現代アート「記憶の容―生きていた舟―（石上城行作品）」を鑑賞して★別所沼の古代魚を作ろう！

矢花俊樹（金工家、元 埼玉県立近代美術館エデュケーター）
11月7日㊐ 1回目：10:30～11:15、2回目：11:30～12:15分（各集合は10分前）
対象：小学生から大人まで ※小学1、2年生は保護者同伴
定員：各回5名（参加者合計10名）／材料費：500円

石上城行氏の作品「記憶の容 ―生きていた舟―」で、参加者と対話による鑑賞を行います。鑑賞体験をもとに、この幻想的な空間に合わせた古代魚をイメージし、家庭でも簡単にできる「簡単キッチン鋳造技法」で錫製のオブジェを制作するプログラム。

言葉と写真で綴るわたしの発見

加藤典子（加藤こどもの造形教室主宰）
11月7日㊐ 13:45～16:00（集合は10分前）
対象：小学生 ※保護者同伴。スマホを使って写真撮影。
定員：20名（子ども10名　保護者10名）／材料費：500円

別所沼公園の中を廻り自分だけの小さな発見や心動かされる何かを見つけよう。それを子ども自身がスマホで撮影し短い文章にまとめます。それぞれの発見場所を全員で廻りながら感じ取ったものを言葉と写真で発表し、共有共感する中で自己肯定感を味わってほしい。「言葉と写真集」は後日参加者に郵送します。

SMFラウンドテーブル2021

これからの文化芸術活動を創造する為の対話集会

◀ラウンドテーブルの申し込みはこちらで！（定員以上の場合は抽選）

12月5日㊐ 14:00～17:00　別所沼会館大会議室　資料代：500円

登壇者：建畠晢（詩人、美術評論家、埼玉県立近代美術館館長）
　　芹沢高志（アートディレクター、都市・地域計画家、翻訳家）
　　アンケートの回答等から選出された5名、三浦清史（建築家、SMF代表）

さいたま市南区別所沼公園内
JR埼京線中浦和駅から徒歩約5分
JR京浜東北線浦和駅から約20分

●「これからの文化芸術活動を創造する為のアンケート」調査結果、プログラムのアーカイブ映像のウェブサイト公開！ 2022年3月末予定。

●新型コロナウイルスや天候などの影響により、プログラムの中止または内容を変更する可能性があります。予めご了承ください。
主催：SMF（サイタマミューズフォーラム）／助成：令和3年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業／協力：ヒアシンスハウスの会・新木場倶楽部●プロジェクトディレクター：浅見俊哉（SMF運営委員）・プロジェクトコーディネーター：三浦清史（SMF代表）／お問い合わせ：メール：smfartnagaya@gmail.com

オール埼玉で彩る文化プログラム助成事業

埼玉県文化振興基金

beyond 2020

ヒアシンスハウスアートコロニイ展

「記憶のありか」

新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、今、改めて文化芸術活動の在り方や役割について考える機会と場が求められています。

私たちは、コロナ禍、公共機関が所管・運営する美術館や文化施設が閉鎖となり、芸術祭の様な地域活動と結びついた現場も実施困難となり、文化芸術活動への参加の機会を失う経験をしました。文化芸術活動の在り方や役割について考えるときには、閉じた特定の領域の文化芸術活動の担い手だけで議論し、早急に答えを出すのではなく、広く文化芸術活動に携わる様々な領域の人が集まり、多角的・多層的な意見を交わす機会と場をつくることが大切だと考えます。その機会や場を私たちは「アートコロニイ」と表現し、実践します。

今回のプロジェクトの舞台となる、ヒアシンスハウスは立原道造が自分の創作のために設計した小屋としてばかりではなく、ここで様々な芸術家が集まるコロニイの構想もその発想の根底にあったと推測される魅力的な場です。これまでもSMFは、ここで、様々な文化的な企画を開催し、アーティストだけでなく、公園利用者との交流も活発に行ってきました。

本展覧会、「ヒアシンスハウスアートコロニイ展―記憶のありか―」は様々な表現方法を持つ作家が集まり、作品を制作する過程から公開することで「アートコロニイ」を体感できる機会を創造します。最終日の11月7日には、関連ワークショップ、身体表現のパフォーマンス、ギャラリートークが行われます。

SMF
Saitama Muse Forum

詳しくは裏面をご覧ください。

ヒアシンスハウスアートコロニイ展

「記憶のありか」

2021年10月30日㊏～11月7日㊐　11:00～18:00（初日13:00から、最終日17:00まで）**会場：ヒアシンスハウス前庭**

さいたまゆかりの3作家による、様々なジャンルの芸術文化活動を紹介し、アートコロニイを体感できる作品展です。
会期中、作家は公開制作などを行い、公園利用者との交流も行います。参加費：無料

浅見俊哉（アーティスト）
「青写真の瓦版-2021」

石上城行（彫刻家、埼玉大学准教授）
「記憶の容　生きていた舟」

藤井彩加（舞踊家）
「万博」

ワークショップ❶

現代アート「記憶の容―生きていた舟―（石上城行作品）」を鑑賞して★別所沼の古代魚を作ろう!」
矢花俊樹（金工家、元 埼玉県立近代美術館エデュケーター）
11月7日㊐　1回目：10:30～11:15、2回目：11:30～12:15（各集合は10分前）
対象：小学生から大人まで ※小学1、2年生は保護者同伴
定員：各回5名（参加者合計10名）／材料費：500円

ワークショップ❷

言葉と写真で綴るわたしの発見
加藤典子（加藤こどもの造形教室主宰）
11月7日㊐　13:45～16:00（集合は10分前）
対象：小学生 ※保護者同伴。スマホを使って写真撮影。
定員：20名（子ども10名　保護者10名）／材料費：500円

各ワークショップの申し込みはこちらで！（定員以上の場合は抽選）▲

パフォーマンス

藤井彩加「万博」11月7日㊐ 13:00～13:30

アーティストトーク

浅見俊哉、石上城行 11月7日㊐ 14:00頃から

SMFラウンドテーブル2021
これからの文化芸術活動を創造する為の対話集会

本企画、SMFラウンドテーブル2021「これからの文化芸術活動を創造する為の対話集会」は、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響で、文化芸術活動の在り方や役割について改めて、再考する機会の必要性を感じ、プロジェクトの締め括りの企画として開催します。

ウィズコロナ時代の文化芸術活動のプラットフォームづくりを目的として、プロジェクトを行う中で、様々な人たちに意見を聞く「これからの文化芸術活動を創造するためのアンケート調査」を行いました。その結果を元に、意見交換の為の視座を共有します。

SMFがこれまで活動する中で培った人と人とのネットワークを生かし、登壇者の方々とはじめ、文化芸術活動を支える様々な領域の人たちと闊達に意見を交換しあい、しなやかでたくましい文化芸術活動をつくる為のアイデアを共有したいと考えています。

12月5日㊐ 14:00～17:00　別所沼会館大会議場　●資料代:500円

ラウンドテーブルの申し込みはこちらで！（定員以上の場合は抽選）▲

●第一部：14:00～15:20

人々にとってアートとは? そして建築は何故アートに入らないのか?
―アンケート調査を通して、領域横断的なアートプラットフォームづくり考える―
登壇者：プロジェクトを通して選出

●第二部：15:30～16:50

これからの文化芸術活動の在り方や役割を再考する
登壇者：建畠哲（詩人、美術評論家、埼玉県立近代美術館館長）
芹沢高志（アートディレクター、都市・地域計画家、翻訳家）
三浦清史（建築家、SMF代表）

●新型コロナウイルスや天候などの影響により、プログラムの中止または内容を変更する可能性があります。予めご了承ください。
主催：SMF（サイタマミューズフォーラム）／助成：令和3年度オール埼玉で彩る文化プログラム公募事業／協力：ヒアシンスハウスの会・新木場倶楽部●プロジェクトディレクター：浅見俊哉（SMF運営委員）・プロジェクトコーディネーター：三浦清史（SMF代表）／お問い合わせ：メール：smfartnagaya@gmail.com